歌浦っ子だより（学校だより）

「やさしい心　夢かがやく　歌小の子どもの育成」

平成２９年　６月　２日　　文責：校長　内野義和

いのちを見つめる強調月間

今月は「いのちを見つめる強調月間」です。昨日朝の全校朝会で、校長講話として、子どもたちに次のような流れで話をしました。

①「今月はいのちを見つめる月です。ところで、いのちって何でしょう？　いのちはどうして大切なのでしょう？　わかりますか？　」と問いました。
②子どもはよくわからないという顔をしました。
③「一言で説明するのは難しいですね」と話しました。
④「今から絵本を読みます。しっかり聞いて、『いのち』『いのちの大切さ』について感じたり思ったり考えたりしてください」と話しました。
⑤「命はどうして大切なの？」（作：大野正人）を実物投影機で拡大しながら、読み語りをしました。
⑥伝えたいことを模造紙にまとめ、説明をしました。

この本を通して、私が子どもたちに伝えたかったことは次のことです。

・人は、たくさんの命のおかげで大きくなっている。
・自分を大きくしてくれる命に向けた感謝の言葉が「いただきます」。
・心は、自分の中に入ってきた命が作ってくれたもの。
・自分の心を作ってくれる命に向けた感謝の言葉が「ありがとう」。
・「ありがとう」と「いただきます」で、命の大切さを思い出す。
・自分が大切に思っていた人が亡くなっても、心の中で生き続けており、それはしあわせなことで、命の大切さを感じることになる。
・皆さんの一人一人は、バトンのように受け継がれてきた大切なもの。

・人を思いやり、助けていこう。
・私たちは一人では生きていけない。友達、家族、地域の人と関わりをもって生きていこう。

これらを２０分の講話でわかって欲しいということではありませんでした。１年生から６年生まで発達段階も違います。それぞれの感じ方も違います。まずはそれぞれの子どもが感じたり思ったり考えたりして欲しかったのです。

この命の講話をきっかけとして、この１か月はしっかり命を見つめ、最終的には伝えたかったことを実感して欲しいのです。道徳の学習で学年に応じてさらに命の大切さについて学び、命の大切さを実感するでしょう。また、全校児童によるいもさし、５年による田植えで子どもは命をつくることになり、命を食べているということを実感するでしょう。さらに「あいさつ運動」や「笑顔の集い」で人との関わりの大切さを実感するでしょう。こうやって学びを深めていき、しっかり実感させていきたいと思います。

どうか**ご家庭でもこの１か月は、命を見つめる家庭教育を展開**していただけるとありがたいです。私が伝えたかったことをそれぞれのご家庭でもお話をしていただければ、さらに子どもの心にしみ込んでいくと思います。

この本の最後に「大人の方へ」ということで作者は次のように書いています。

・普段の何気ない「いただきます」や「ありがとう」の言葉の意味を再確認することによって、子どもとの愛着がさらに深まり、また、子ども自身もいかに自分が大切な存在であるか、気づく。

私も同じ考えです。一番子どもとの愛着が深いお家の方が、「いただきます」や「ありがとう」の言葉の意味をご自分の言葉でお子さんへお話をしていただければ、お子さんは自分が愛されていることを実感し、いかに自分が大切な存在かに気づくと思います。よろしくお願いいたします。

次号は、校長講話後、いろいろな学習・活動に取り組むことで、どのような学びをしたのかを中心にお知らせしようと思います。実際の子どもの学びも見に来ていただければ幸いです。